

氏名	松島 奈穂		
ヨミガナ	マツシマ ナホ		
学位の種類	博士（音楽）		
学位記番号	博第5号		
学位授与年月日	平成30年3月10日		
学位論文題目	ローベルト・シューマンにおける変則的な記譜 ——1840年以前のピアノ独奏曲の研究——		
博士論文審査委員会	(主査)	教授	岡田 敦子 (ピアノ)
	(副査)	教授	播本 枝未子 (ピアノ)
	(副査)	教授	坂崎 則子 (音楽学)
	(副査)	教授	武石 みどり (音楽学)
	(副査)	准教授	藤田 茂 (音楽学)
	(副査)	講師	土田 英介 (ピアノ、ピアノ伴奏)
	(副査)		西原 稔 (音楽学) (桐朋学園大学教授)
博士演奏等審査委員会	(主査)	教授	岡田 敦子 (ピアノ)
	(副査)	教授	播本 枝未子 (ピアノ)
	(副査)	教授	フェイギン ドミトリー (チェロ)
	(副査)	教授	釜洞 祐子 (声楽)
	(副査)	教授	藤原 豊 (作曲)
	(副査)	教授	武石 みどり (音楽学)
	(副査)	准教授	山洞 智 (ピアノ、ピアノ伴奏)
	(副査)	講師	土田 英介 (ピアノ、ピアノ伴奏)
	(副査)		松崎 伶子 (ピアノ) (平成音楽大学教授)

審査結果の要旨

1. 博士論文審査委員会

日 時	平成 30 年 2 月 15 日 (木) 12 時 30 分～15 時 00 分
場 所	東京音楽大学 J208
判 定	合
審査結果の要旨	<p>多くの人が感じながらも語られることの少ないシューマンの特異な拍節感——不規則的かつ多様な拍節感やリズムの特徴——に注目したことに筆者独自の問題意識があり、先行研究についての適格かつ批判的な思索を行った上で、シューマンの 1840 年以前に書かれた全ピアノ曲について詳細な分析を行い、3つの時代区分を提唱した優れた論文である。予備審査時点より論旨が明確になり、「芽生え」「実験」「習熟」という3つの時代区分も説得力が増し、演奏解釈上の視点も付加されたことで、シューマンを演奏する人たちにとって大きな示唆を与える内容となった。以上の点を評価し、演奏を専門とする者の博士論文として適格であると判断した。</p> <p>ただし演奏解釈上の論述について、ペダルの指示、表現と奏法の問題など、なお配慮すべき点が認められるため、一部修正のうえ公表することとした。</p>

2. 博士演奏等審査委員会

日 時	平成 30 年 2 月 23 日 (金) 19 時 00 分～20 時 00 分
場 所	東京音楽大学 Jスタジオ
判 定	プログラミング、演奏内容ともに優れたものであり、博士論文の研究成果とも有機的に関連しており、博士学位を授与するにふさわしい。
審査結果の要旨	<p>シューマンのピアノ曲は、大別すると「性格的小品」と「ソナタ形式によるもの」に分けられるが、前半に作曲年代の異なる性格的小品集を2つ、後半にソナタを配し、バランスの良いプログラミングとなっている。</p> <p>作品に対してきわめて誠実に、良心的に取り組んでおり、作品に対する共感に溢れ、深い音色もドイツ音楽に合っており、技術的にも安定し、構成力のある優れた演奏であった。博士論文においてリズムと拍節の特異性について体系的に研究したことも、シューマン特有の繰り返しの多い音形のそれぞれを的確に演奏していることに繋がっていると考えられる。</p> <p>和音の変化や音楽の息遣いなどに対応した音色の変化、リピートにおける表現の多様性、ポリフォニーの扱いなどにさらなる研鑽を望むこともできるが、プログラミング、演奏内容ともに質の高いものであり、博士の学位を授与するにふさわしいと判定した。</p>

以上